

1. 日米株式と円/ドルの推移

<日本株(日経平均)>



<米国株(NYダウ)>



<円/ドル>



(注)チャートは過去1年

	単位	2023/12/31	2024/10/31	2024/11/8	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	33,464.17	39,081.25	39,500.37	42,426.77	2024/7/11	24,681.74	2022/3/9
NYダウ	ドル	37,689.54	41,763.46	43,988.99	44,157.29	2024/11/8	28,660.94	2022/10/13
円/ドル	円	141.04	152.03	152.64	161.95	2024/7/3	112.53	2021/11/30

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

～米大統領選挙におけるトランプ前大統領の勝利を受け 財政拡大への期待などから上昇～

先週の日本株市場は、日経平均が+1,446.70円(+3.80%)、TOPIXが+97.89ポイント(+3.70%)となり、米大統領選挙におけるトランプ前大統領の勝利を受け財政拡大への期待などから上昇しました。業種別でみると証券・商品先物取引業、保険業、銀行業などの28業種が上昇した一方、空運業、パルプ・紙、水産・農林業などの5業種が下落しました。

週初5日は、翌日に米大統領選挙を控え、投資家の様子見姿勢は強かったものの、先月31日の植田日銀総裁の記者会見での発言を受けた追加利上げ観測を背景に先々週末に大幅下落していたことから、反発を期待した買いが集まり上昇しました。6日は、取引時間内に米大統領選挙の結果が判明する中で、ジョージア州などの激戦州で減税などの財政拡大政策を推し進める共和党のトランプ前大統領が優勢と報道されたことから、為替が一時的に1ドル154円台まで円安進行し、その流れを受け日本株市場は大幅続伸となりました。7日は、前日の米株式市場が米大統領選でトランプ前大統領の勝利を受けて大幅上昇したことや、10年債利回りが1.0%台まで上昇したことで金融株に買いが集まり、3日続伸となりました。週末8日は、FRB(米連邦準備理事会)が前日のFOMC(米連邦公開市場委員会)で追加利下げを決めたことは上昇要因となったものの、米国長期金利の下落により為替が1ドル152円台まで円高進行したことなどが上値抑制に働き、小幅な下落となり引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前週
11月11日	Mon	日本	景気ウォッチャー調査現状	10月	47.8
			景気ウォッチャー調査先行き	10月	49.7
11月12日	Tue	ドイツ	日銀金融政策決定会合における主な意見(10月30・31日分)		
			特別国会で首相指名選挙実施		
11月13日	Wed	日本	CPI(消費者物価指数)(前年比)	10月	+2.0%
		EU圏	ZEW期待指数	11月	13.1
11月14日	Thu	日本	企業物価指数(前年比)	10月	+2.8%
		米国	ユーロ圏鉱工業生産(前月比)	9月	+1.8%
11月15日	Fri	米国	CPI(除食品・エネルギー/前年比)	10月	+3.3%
		中国	PPI(生産者物価指数)(除食品・エネルギー/前年比)	10月	+2.8%
11月15日	Fri	日本	GDP(国内総生産)速報値(前期比年率)	7-9月期	+2.9%
		中国	鉱工業生産(年初来/前年比)	10月	+5.8%
11月15日	Fri	米国	小売売上高(年初来/前年比)	10月	+3.3%
		米国	ニューヨーク連銀製造業景気指数	11月	▲11.9
11月15日	Fri	米国	小売売上高(除自動車)(前月比)	10月	+0.5%
		米国	鉱工業生産(前月比)	10月	▲0.3%

決算発表予定 他	国	決算発表	国内
			11/11 日清食品H、いすゞ自、明治HD、プリンス、大林組、千葉銀行、バンパシ、リカルトH、大日本印刷 11/12 鹿島、出光興産、センショー、大和ハウス、ヤマト、トレント、サントリー、INPEX、ネクソン、住友金属鉱山、ソフトバンクG、東エルク、リソナHD、三井住友FG、光通信 11/13 エネオス、楽天G、TOPPANホールディングス、ロート製薬、三越伊勢丹 11/14 SMC、第一生命H、みずほFG、電通G、マツコ、三菱HCC、かんぽ生命、T&DHD、日本郵政、ゆうちょ銀、アサヒGH、荏原、日本ペイント、コカ-Cola、MUFJ、三井住友FG
海外	11/12 ホーム・デポ、スホテック、パイレール、インフィニオンテクノロジーズ、アストラセネカ 11/13 シスコシステムズ、アリソン、テセント 11/14 ウォルト・ディズニー・カンパニー、アラビド、メルク、シーメンス、JD・ドットコム、鴻海精密工業 11/15 アリババ		

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

～日米の政治・金融政策イベントを通過した安心感はプラスとなるも、先行きの業績に対する警戒感から、横ばい圏で推移～

今週の日本株市場は、日米の政治・金融政策イベントを通過した安心感はプラスとなるも、先行きの業績に対する警戒感から、横ばい圏で推移するとみまます。

先週の米大統領選挙ではトランプ前大統領が勝利し、上下院選挙も共和党が過半数を獲得する可能性が高く、トランプ氏が掲げる経済政策へ期待はしばらく継続するとみまます。国内では、本日(11日)特別国会における首相指名選挙で決選投票を経て石破氏が選出されることが見込まれており、少数与党としての不安定さは残るものの政治の不透明感に対する過度な懸念はひとまず和らぐとともに、政権運営における野党の協力を獲得するための財政拡大への思惑が高まりやすいとみまます。また、先週開催されたFOMCでパウエルFRB議長は「選挙結果は短期的な政策決定に影響しない」と発言しており、13日に発表される米CPIで緩やかなインフレの鈍化が確認されれば、FRBの利下げスタンスは維持され引き続き株価のサポート材料に働くとみまます。ただし、先週までに発表された国内企業の間接決算においては、中国経済の回復の遅れや自動車販売の不振などから一部企業の業績が予想を下回っており、先行きの業績に対する警戒感が上値抑制に働くとみまます。その他の注目材料として、日本では11日の景気ウォッチャー調査、15日のGDP、米国では14日のPPI、15日の小売売上高、欧州では13日のユーロ圏鉱工業生産、ドイツでは12日のZEW期待指数、中国では15日の小売売上高などが挙げられます。